令和６年度　学校経営計画書及び自己評価計画書

石川県立輪島高等学校 定時制
校　長　　平　野　　敏

１ 教育目標（目指す生徒像）

広い視野を持ち、地域に貢献できる自立した社会人の育成

《 校　訓 》

①　誠実　：　あたたかい心のふれあいを大切にする
②　覇気　：　何事にも意気込みを持って積極的に取り組む
③　努力　：　目的達成のために常に力を尽くして励む

２ 中・長期的目標（経営方針）

（１）学校の現状

①本校は「働きながら学ぶ生徒」も含めた、「多様な生徒が学ぶ学校」であり、適切な教育支援を行うために生徒の家庭環境や生育歴・学習履歴を把握し、生徒が自ら人生を歩む力を育成するために組織的な生徒指導・教育相談・学習指導・進路指導の充実が求められている。
②地域に生まれ育ちながら地元の伝統文化や自然の素晴らしさに気づかないまま青年期を迎えた生徒が多いため、里山里海保全活動などの「ふるさと学習」を通して、豊かな心と逞しく生きる力の育成が求められている。

（２）生徒に関する中・長期的目標

①生徒の実態に即したわかりやすい授業を展開し、基礎・基本の習得を図り、学習意欲を高める。
②社会人としてふさわしい挨拶や言葉遣いができるなど、他者と円滑にコミュニケーションをとる力を育成する。
③ふるさとを愛し、地域の文化や伝統を尊重する態度を育み、将来、地域に貢献しようとする意識を高める。

（３）教職員、学校組織等の望ましい在り方

①校長の学校経営方針のもと、PDCAサイクルを踏まえた学校経営を推進し、組織的な教育力を高める。
②学校経営参画意識を持って課題に対して速やかに対応し、生徒から信頼される「人間力」を高める。
③校外・校内研修等により学習指導（ICT活用能力を含む）・生徒指導・進路指導における専門性を高め、学校全体の教育力を高める。

３　今年度の重点目標

（１）学ぶことのよろこびを実感できる学校

①一人一台端末の効果的な活用により興味・関心を高める授業を工夫することで、意欲的に学習に取り組む姿勢を育成する。
②授業や総合的な探究の時間での主体的な活動により基礎・基本の習得を図り、学びに対する自己肯定感を醸成する。

（２）社会人基礎力を向上できる学校

①社会人として求められる挨拶・言葉遣いの指導により、場に応じた適切な行動ができる生徒を育成する。
②自己管理意識を高める指導により、目標に向かい一歩前に踏み出す力を養成する。
③いじめを許さない姿勢を示すとともに、自他を認め合う心を醸成し、チームで活動する力を養成する。

（３）地域愛を育む学校

①震災の影響を受けた能登里山里海の復旧復興活動に積極的に参加することにより、地域の未来を担う人材を育成する。
②伝統文化及び自然環境の復旧復興の在り方や現状を学習することにより、協働的に学ぶ姿勢を育む。

（４）多忙化改善を積極的に実現する学校

①業務の見直し及び平準化により、適正な勤務時間の確保を図る。

石川県立輪島高等学校　定時制

	重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
1	学ぶことのよろこびの実感	(1)一人一台端末を活用した授業の工夫・改善	学力向上Ｇ （教　　務）	学業に集中して取り組む態度が定着しつつあり、意欲的に学習活動に向き合う生徒が増えてきている。	【成果指標】 一人一台端末の活用のさらなる工夫により、意欲的に学習に取り組んでいる。	一人一台端末の活用の工夫により意欲的に学習に取り組めたと感じた生徒が Ａ：８０％以上 Ｂ：７０％以上 Ｃ：６０％以上 Ｄ：６０％未満	Ｃ・Ｄの場合は、次年度、計画や方策を再考する。	生徒アンケート
		(2)授業内容の工夫を図る校内外の研修の充実		学習内容に興味関心を持ち、授業に主体的に取り組む生徒が増えてきている。	【成果指標】 興味関心を高めるような授業改善により、生徒が主体的に授業に取り組んでいる。	授業に主体的に取り組んだ生徒が Ａ：７０％以上 Ｂ：６０％以上 Ｃ：５０％以上 Ｄ：５０％未満	Ｃ・Ｄの場合は、次年度、計画や方策を再考する。	生徒アンケート
2	社会人基礎力の向上	(1)日常的な挨拶・言葉遣い指導	ｷｬﾘｱ教育Ｇ （進路指導） （生徒指導）	基本的な挨拶ができる生徒もいるが、十分ではない。生徒が自ら進んで挨拶ができるよう習慣づける必要がある。	【成果指標】 登下校時や必要な時に自ら進んで挨拶ができている。	来校者や職員に対し自ら進んで挨拶をしていると答えた生徒が Ａ：８０％以上 Ｂ：７０％以上 Ｃ：６０％以上 Ｄ：６０％未満	Ｃ・Ｄの場合は、次年度、計画や方策を再考する。	生徒アンケート
		(2)自己管理意識を高める粘り強い指導		年度の前半は頑張っている生徒が多いが、後半になると遅刻や欠席が増えてきている。	【成果指標】 時間や生活習慣に対する自己管理意識を高めて、授業の出席率が向上している。	全授業の出席率７０％以上の生徒が Ａ：７０％以上 Ｂ：６０％以上 Ｃ：５０％以上 Ｄ：５０％未満	Ｃ・Ｄの場合は、次年度、計画や方策を再考する。	出席率
		(3)自他を認め、チームで活動する機会の充実や人権教育及び道徳教育の充実化		自己肯定感の低い生徒が多く、他者との関係構築に消極的な生徒が多い。	【成果指標】 行事等を通して他者と協調して活動できている。	行事等を通して他者と協調して活動できたと答えた生徒が Ａ：７０％以上 Ｂ：６０％以上 Ｃ：５０％以上 Ｄ：５０％未満	Ｃ・Ｄの場合は、次年度、計画や方策を再考する。	生徒アンケート
3	地域愛の育成	(1)復旧復興活動に係る行事の精選とニーズの把握	地域理解Ｇ （生 徒 会）	総じてふるさとに関する体験学習の評価が高い一方、参加に消極的な生徒もいる。	【成果指標】 生徒全員が、復旧復興に関する体験学習に積極的に取り組んでいる。	体験学習において生徒の参加した割合が Ａ：８０％以上 Ｂ：６０％以上 Ｃ：５０％以上 Ｄ：５０％未満	Ｃ・Ｄの場合は、次年度、計画や方策を再考する。	体験学習の参加率
		(2)協働的に学ぶ場面設定の充実		継続的に体験学習を増やしたことで、徐々にではあるが、協働的に取り組む姿勢がみられるようになってきている。	【成果指標】 グループで行う体験学習を数多く経験することにより、生徒がより協働的に取り組んでいる。	体験学習において協働的に取り組むことができたと感じた生徒が Ａ：９０％以上 Ｂ：７０％以上 Ｃ：５０％以上 Ｄ：５０％未満	Ｃ・Ｄの場合は、次年度、計画や方策を再考する。	生徒アンケート
4	多忙化改善	(1)業務の見直し・平準化による多忙感の解消	教頭 （全教員）	教員数の減少により一人の教員が複数の業務を担う割合が高まっている。	【成果指標】 各業務の見直しや分担を通して各教員が効率よく業務に取り組んでいる。	時間外勤務について、月平均で以下の時間を超える教員がいない Ａ：１５時間 Ｂ：２０時間 Ｃ：２５時間 Ｄ：３０時間	Ｃ・Ｄの場合は、次年度、抜本的な業務の見直しを図る。	教員の勤務時間調査